

政策評価書（要旨） （事後の事業評価）

事業名	将来装輪戦闘車両	担当部局	経理装備局技術計画官
政策体系	4-1 研究・開発	実施時期	平成21年1月～3月

事業の内容 将来の装輪戦闘車両に求められる機能向上と経費低減のために必要な汎用車両によるファミリー化のための共通基盤技術をモデリング&シミュレーション（M&S）を活用して研究し、システム構成と研究開発の効率化に関する技術資料を得るための研究試作を実施する。	事前評価時（概算要求時）					
	15	16	17	18	19	完了年度
	←	研究	試作		→	平成19年度
			←	試	→	経費総額
						39億円
	実施結果					
	15	16	17	18	19	完了年度
	←	研究	試作		→	平成19年度
			←	試	→	経費総額
						41億円

※物価変動等により総経費が変更された。

評価の内容 事業の目的 装輪車両は、長距離路上機動等の戦略機動性に優れており、比較的簡単な構造のため取得・維持経費も安価であるが、従来は個々の用途に応じて開発されてきたため、他の用途の車両には転用しにくく、また、装軌車両と比較して一般的に路外機動力が低く、比較的威力の小さい火器しか搭載できなかった。しかしながら、近年の技術進歩により、装軌車両に匹敵する性能を有する装輪車両を実現し、運用の効率化、経費節減を図れる可能性が高まってきたことから、多様な任務に適用できる汎用装輪車両でファミリー化するために必要な砲・弾薬技術、振動抑制技術といった共通基盤技術について研究する。また、複数の試作品を実際に製造して行うことが難しい将来の装輪戦闘車両の性能とコストの比較検討を、M&Sを活用して実施し、システム研究開発の効率化に関する技術資料を得る。	達成状況 ①達成効果 本事業においては、試作した中口径CTA機関砲及び弾薬、制振車体部等について必要な性能を満足するとともに、ファミリー化検討を行った結果、以下のような達成効果が得られた。 ア 将来の機関砲搭載型装輪戦闘車両用として、小型・軽量化に優れる中口径CTA機関砲及び弾薬を試作することができた。 イ 将来の装輪戦闘車両用として、射撃精度や路外機動性能を向上させる振動抑制技術を完成させることができた。 ウ システム研究開発自体の効率化に関する検討用として、装輪戦闘車両のファミリー化の範囲の検討とM&Sによる性能とコストのトレードオフスタディが可能なシミュレーションソフトを試作することができた。 エ 本事業で得られた成果により、将来の装輪戦闘車両に搭載可能なCTA機関砲関連技術を向上させ、更なる火砲・弾薬の基盤技術の獲得・蓄積に貢献した。
②達成時期 平成15年度から試作に着手し、平成19年度までに所内試験を終了し、所要の機能・性能を有することを確認した。	③教訓等事項 本事業では、これまでにないファミリー化を前提とした研究を実施し、今後の開発における共通技術を確立するとともに、コスト低減手法を確立した。

今後の対応 本研究で得られた技術的成果は、平成18年度から研究を実施している「近接戦闘車用機関砲システムの研究」におけるCTA機関砲及び調整破片弾に適用されている。さらに、今後予定される将来の装輪戦闘車両の事業に適用を予定している。	その他の参考情報 平成14年度 事前評価「将来装輪戦闘車両（対空）」
--	--